

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4690300019
法人名	有限会社 オクムラハーネス
事業所名	グループホーム 泉の里
訪問調査日	平成22年3月15日
評価確定日	平成22年4月30日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4690300019
法人名	有限会社 オクムラハーネス
事業所名	グループホーム 泉の里
所在地	鹿児島県鹿屋市上高隈町1579-1番地 (電話) 0994-45-2388

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価確定日	平成22年4月30日

## 【情報提供票より】(22年2月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 10 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	13 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 16.7 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	日額 300 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	800 円		

### (4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.3 歳	最低	60 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福田病院 井ノ上病院 小林クリニック とおや治歯科
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの近くには大隅湖やアジア太平洋農村研修センターがあり、日常的にドライブができる風光明媚な場所にある。ホーム内外ともに清潔で気持ちよく生活できる環境を保っている。ハード面も浴室、居室の手すり、広いウッドデッキ、トイレのドアにカーテンを使用するなど随所に優しい気配りのある造りがみられる。ユニット毎に夕食、温泉、足湯など毎月3回は外出日を設け気晴らしの支援を図っている。安全対策も地域の協力体制が整っており、充実した訓練が実施できている。運営者は外部・内部研修の充実を図り、全職員が向上心を持って働ける職場作り努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、改善課題としての指摘はなかったが、気づきとしてのコメント項目について、職員会議で検討し、取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	管理者、職員は自己評価・外部評価の意義を理解し、全職員で取り組み、項目ごとに各々の意見をもらい、管理者の方でまとめている。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的開催している。会議ではホームの行事や日常生活・取り組みの報告や評価結果を説明、災害対策に対する協力依頼などを協議している。運営推進会議メンバーからの質問・意見・要望など、サービス向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	面会時や年2回開催する家族会を通じて利用者の状況を報告しながら、家族の意見を引き出せるように配慮している。意見や要望は解決に向けた対応策を検討し、運営推進会議、ホーム便りなどで報告し、運営にも反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入し、回覧板届け、奉仕活動、リサイクル回収活動参加や地区の中学生職場体験学習受け入れ、小学生との交流会、運動会見学など交流ができている。地区の方とは気軽に声を掛け合う関係であり、災害対策として地域協力体制の構築もできている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく豊かな心と心のふれあいを大切に、地域とともに」職員で思いを共有しつくりあげた、事業所独自の地域密着型サービスとしての理念をつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビング内の最も目に触れる箇所に理念・社訓を掲示し、毎日の申送りや会議の場で話し合い、理念・社訓を共有し、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板届け、奉仕活動、リサイクル回収活動参加や地区の中学生職場体験学習の受け入れ、小学生との交流会、運動会見学など行っている。地域の方とは気軽に声を掛け合う関係で、災害対策として地域協力体制の構築もできている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で取り組み、職員の意識合わせ、ケアの振り返りになっている。外部評価の結果は運営推進会議や家族にも配布している。ホームの玄関にも閲覧できるようにしている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を開催している。会議ではホームの行事や日常生活・取り組みの報告、評価結果を説明、災害対策についての協力依頼などを協議している。運営推進会議メンバーからの質問・意見・要望などサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故発生報告の提出、退去者報告などをし、指導や相談に応じてもらっている。連携を密にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りで利用者の暮らしぶり、職員異動を報告し、個人別便りでは心身の状況、医療機関からの連絡事項などを報告している。金銭管理については面会時に出納帳を見てもらい、領収書とのチェック、確認ができています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や年2回開催する家族会を通じて利用者の状況を報告しながら家族の意見を引き出せるように配慮している。意見や要望は解決に向けた対応策を検討し、運営推進会議・ホーム便りで報告し、運営にも反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の異動は行っていない。職員の離職を最小限にし、なじみの職員で利用者に支援できるよう配慮している。新人教育に力を入れ、1ヵ月間はノートを提出させ、管理者の方もコメントを書いて関わりを大事に育成しダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て、全職員が受講できるよう配慮している。外部研修受講後は研修報告をホーム内研修で発表、回覧し、職員間の情報共有がされている。自由テーマで自主学習したことをレポートにまとめ、毎月提出し、運営者がコメントして職員の向上心に繋げている。また、職員の資格取得にも力を入れ、支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者同士のネットワークが構築され情報交換を行っている。グループホーム連絡協議会に加入し、定期的に同業者と交流している。研修も活発で職員は事例報告会などを通し、ケアの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に自宅や病院などに出向き面談したり、本人や家族にホームの見学に来てもらい、納得した上での利用開始としている。状況に応じ、体験入居や日帰り体験を進め、ホームに本人・家族が徐々に安心してなじめるよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者に喜んでもらえるホーム内レクリエーションプログラムを作成し、残存機能を活用しながら役割をもって力を発揮してもらい、楽しんでいる。利用者とともに過ごす中で、回想法を通じ昔なじみの生活様式を学んだり、支え合う関係を築いている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常的に本人から思いや意向を聞き希望を最優先に支援している。言葉に出せない利用者の思いは表情やしぐさ、言動などから把握している。職員間で情報を共有し本人本意の検討に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の生活支援の中で課題となっていることなど、家族・本人・関係者の話し合いにより意見・アイデアを反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しを6ヵ月毎にしている。日々の状況を把握し毎月、モニタリングや評価をしている。心身の状況変化に応じ、随時、関係者などと協議し、新たな計画を作成している。家族の面会時に作成した介護計画の同意も貰っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じ、通院支援や自宅訪問・墓参りなど特別な外出も柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の納得が得られたかかりつけ医と信頼関係を築いており、適切な医療を受けられるよう支援している。基本的には病院受診は家族同行をお願いしているが、状況に応じ対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	地域的に医療機関との連携が難しいので現時点では終末期ケアは対応しない方針である。入居時に説明し、理解してもらっている。状況に応じてその都度、家族と話し合いを持ち、話し合いの内容はケース記録に記載している。重度化した場合は医療機関と連携を図り入院となる。		重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を作成し、関係者全員の方針統一を図り、本人・家族に説明、同意書をとることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	年1回接遇の研修を実施している。言葉かけの重要性を認識し、朝夕のミーティング時に話し合い、職員の自覚を促している。利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底や個人情報の取り扱いなど留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側のペースにならないように注意し、利用者一人ひとりの生活リズムを考慮しながら、意向や状況に応じて柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を取り入れた献立を作成、運営者の自家米と地元で採れた季節の野菜を使用している。車椅子の利用者が多くなり、食事の準備はツツむき、もやしの根きりくらいの手伝いである。利用者・職員と一緒に会話しながら食事を楽しんでいる。おやつは毎日1回は手づくりを提供し、夏場は庭の東屋でソーメン流しをしたり、外食も月1回は実施している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日入浴であるが、本人の意向や状況に応じて随時入浴できる。浴室に暖房機能もあり、一人ひとりゆっくり入浴できるように配慮している。温泉を貸切で楽しんだり、足湯に道の駅までドライブすることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の残存機能力に合わせた内容のレクリエーション計画を立てて実施、無理強いしない楽しみごとを支援している。毎朝、掃除や洗濯物たたみをし、貼り絵、干し大根作り、手打ちソバなど季節に応じて楽しみや役割を持って生活できるよう支援している。月3回以上外出し、気晴らしを図っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い日は散歩しながら季節感を肌で感じてもらうよう支援している。月3回は外食、ドライブ、お弁当持参のピクニック、温泉、夜桜見物、イルミネーション見学など実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、利用者の様子をさりげなく把握しながら安全に配慮し、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災避難訓練を夜間想定で実施している。消防分団長が運営推進会議のメンバーでもあり、協力者リスト作成、通報システムなどに地域の町内会長、民生委員、消防分団長、住民2名が入っていて協力が得られる体制が構築されている。消防署の救命処置の講習会も受講している。非常時の備蓄もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量の把握や刻み・お粥食など食事形態も工夫している。水分摂取困難者には紅茶、昆布茶などで工夫し、栄養バランスについては毎食4品以上提供、採血結果の値や月1回の体重測定を目安にし判断している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所より全居室が見渡せ、死角の少ない造りで、浴室も暖房機能により常に温かく快適に入浴できるよう配慮されている。玄関やホール、洗面所に季節の花を飾り、季節ごとに壁飾りやテーブルの配置換えをし、気分転換を図るなど、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的にはベッドであるが個々の身体機能・希望に応じ、タタミ利用や手すりの位置も個々の身体状況に合わせるなど気配りができている。タンス、回転椅子、家族の写真、置時計、胡蝶蘭や観葉植物など自宅にあったものをそれぞれ持ち込まれており、安心して過ごせる個性ある居室になっている。		